資料２

中高一貫教育校設置に係る庄内地区懇談会（２月 12 日）の各自治体の発言の要点

※　各文頭の数字は、資料１の各下線部との対応を表す。

＜鶴岡市＞

（１）　６年間の継続的な教育により、個性・才能を引き出す新たな選択肢となり、次代を担う人材を育成し、地域の発展につながる重要な意義がある。

（２）　これまで特別な配慮が必要な子どもたちの指導に力を入れてきたが、もっと頑張りたい子どもたちのための選択肢があってもよいのでないか。

（３）　県による関係者懇談会や鶴岡市による懇談会などの機会を通して、中高一貫教育校の設置について市民の理解は着実に深められている。今後は、どのような特色や魅力をもつ学校をつくるか具体的に考える段階ではないか。

（４）　探究型学習は、既存の中学校・高校でも当然のものとしてやっていく。鶴岡市立中学校の設置者としては、県立中学校に負けない学校づくりをしていきたい。

（５）　県教育委員会が設置案を公表後、賛否両論があったが、市民の理解が深まっており、まだ計画決定がなされていないことに不安をもらす保護者の声もある。

（６）　目指す学校像や教育課程などは、教育基本計画策定委員会などで具体的に議論することになる。今後は、計画を決定し、各市町の保護者等に説明しつつ、具体像を検討していく時期なのではないか。

（７）　酒田市の懇談会の様子から、酒田市にもニーズはあると聞いている。酒田市の子どもが鶴岡市にある県立中学校で学んだ後、大学に進み、夢や志を実現する努力を重ね、酒田市や山形県といった地域に貢献してくれることも期待できるのではないか。

（８）　酒田東高校の探究科の魅力や酒田市独特の地域素材を生かすことを検討し、鶴岡南高校と酒田東高校がともに切磋琢磨し、互いに良い学校づくりをしていくべきだ。

＜酒田市＞

（９）　庄内地域に設置した場合の影響について詳細な分析がされていない。地域全体の意見を慎重に聞いて進めるべきであるが、説明もされていないので設置すべきではない。

(10)　県からの説明や東桜学館の見学を踏まえると、特色ある学校の選択肢が増える意義は認められるが、本当にゆとりができるのかなどといった懸念もある。

(11)　探究型の教育やリーダーの育成の重要性は理解するが、中高一貫教育以外にもやり方はある。中学校と高校それぞれの単位でアクティブ・ラーニングを進め、能力を伸ばすのが今のトレンドである。

(12)　鶴岡市に特別な学校をつくると、ツインシティとしてやってきた酒田市と鶴岡市のバランスが崩れてしまう。２つの進学校が今後も成り立つよう、鶴岡南高校と鶴岡北高校の統合高校以外の学校を拠点としたものとしてほしい。

(13)　庄内という小さな地域に中高一貫教育校を作るとなると、教職員のエネルギーや労力がかかり、影響が大きい。全体の向上につながるところに力を注いでいただきたい。

(14)　酒田市の教育委員の中には、庄内のどのエリアからも通学しやすい場所が望ましいという意見が多い。

(15)　県教育委員会の設置案は高校再編と一体となっているが、高校再編が終わった酒田市としては、中高一貫教育校の設置は高校再編とは切り離して議論したい。

(16)　中高一貫教育校でリーダーを育成するなどという共通認識ができているわけでなく、保護者には学校の具体的なイメージがまだまだ足りない。どういう学校を目指すのか、皆で考え、理解する必要がある。様々な機会をとらえて説明をしてほしい。

＜三川町＞

(17)　グローバル化や多様化を考えた場合、探究的、主体的な学びを深める場として、中高一貫教育校という選択肢が、庄内の子どもたちにはないことは残念だ。

(18)　懸念されるデメリットについては、教員、生徒、保護者の取組みにより軽減できるものであり、それをもって中高一貫教育を否定することはできない。

(19)　これまでの教育施策では、平等を念頭に平均化されることにより、底上げはなされているが、使命感や気概あふれるリーダーの育成は不十分。中高一貫教育がその根幹をなすと期待できる。

(20)　多くの私立高校や都立高校では、６年間の教育活動というメリットに注目して実績を上げている。

(21)　県教育委員会による東桜学館の中間検証を見ると、様々な素晴らしい取組みを通してすでに成果が出ている。さらに成果を検証してから設置を考えるのではなく、東桜学館を参考にして、庄内に適した中高一貫教育校を作ることを目指すべきである。

(22)　田川地区の高校再編は、中高一貫教育校を設置する絶好の機会である。

(23)　県教育委員会の設置案は、慎重な中にも非常に練られた提案であり、賛成である。

＜庄内町＞

(24)　６年間一貫した教育目標のもと、計画的・継続的な指導により、個性・創造性を伸長し、優れた知識･能力を有する生徒を育てることができる。児童･保護者にとっての選択肢が広がる。市町立中学校や他の高校と連携をとりながら、刺激となって、地域の教育力の活性化につながる。これらの理由から、積極的に進めるべきだ。

(25)　多様な社会で個性を発揮し、夢を実現させるため、高校受検の負担をかけず６年間のスパンでじっくり取り組んでいける道筋もあってよいのではないか。

(26)　庄内総合高校が全日制・定時制・通信制の併設校となる。さらに中高一貫教育校ができることにより、庄内全体の子どもたちにとって多様な選択肢ができることとなる。

(27)　意向調査では、庄内全域で検討してほしいという趣旨で条件付き賛成とした。今回このような意見交換の場が設けられ、また、庄内開発協議会でも要望してきたことであるので、賛成の立場である。

(28)　既存中学校への影響が比較的少ないこと、既存校舎の活用等に適していることなど、県教育委員会において様々な検討がなされていることを踏まえて、賛成である。

(29)　平成 22 年に設置の希望を問われた際、庄内町としては庄内総合高校を中高一貫教育校とした場合の学校のイメージが持てず、希望しなかった。鶴岡南高校と鶴岡北高校の統合となれば、地域の方々にもどのような高校になるだろうかというイメージを持ちやすいのではないか。

(30)　県教育委員会で計画を決定した後、教育目標や教育課程の検討の過程で、児童・保護者・教員に対し丁寧な情報提供を行うことにより、要らぬ競争を生むなどのデメリットを抑えることができるのではないか。

＜遊佐町＞

(31)　意向調査では、庄内全体での意見聴取・議論がないまま進められていることや具体的なことが理解できていないことから設置すべきでないと回答したが、この場が設けられたことは評価する。

(32)　少子化の将来の推移を見据えた上で、県全体の教育のあるべき姿として捉えたとき、設置構想に基づいた庄内地区への中高一貫教育校の設置について異議はない。

(33)　中高一貫教育校が時代の要請によるものであれば、みんなで議論して良い学校に育ててくべきだ。その際、庄内全域の他の高校の在り方も含めて議論してはどうか。

(34)　鶴岡市に設置された場合、遊佐町からは遠距離通学の必要があり、選択肢の多様化につながるのかという課題もある。

(35)　庄内全域の学校のあり方として議論を進め、子どもや保護者の理解を深めた上で、県教育委員会の設置案に基本的に異議はない。

(36)　本日初めて庄内全体で議論をするので、ある意味スタートラインについたところだ。県の提案も生かしながら進めていただきたいが、本町としても再確認しながらいきたい。